

湘南浦高会通信 第4号

2017年4月1日

1. 第9回地域職域同窓会責任者会議出席報告

平井隆一（21回）

去る2月11日（土）午後、浦高内麗和会館において、第9回地域職域責任者会議が、浦高同窓会幹部、地域・職域同窓会代表が一堂に会し開催されました。我が湘南浦高会からは、私（平井）と吉田学会計担当幹事の2名が出席しました。ここに私が特に印象に残ったことを中心にご報告します。別途春日部支部の香田副会長が纏めた議事録もご参照下さい。

① 木村恵司同窓会長挨拶

この時期になると東大に何人受かったか、という話題が出るが、企業にとっては知識を詰め込まれた人ではなく、グローバル社会の中で知恵を働かすことのできる人材が必要。優等生ではなく、新しいことを起こせる人であり、「広き宇内に雄飛する」人材であります。今、浦高の教育方針は、将来に求められている人材育成の教育が為されていると思います。

② 杉山剛浦高校長挨拶

昨年、週刊東洋経済（2016.10.15号）で全国の名門高校を特集した記事を書いた記者から、「私がお子様を通わせたいと思ったのが浦和高校です。その理由は、大学進学実績が取り沙汰される中で、生徒が自信を持って学校に通っていて、その姿勢が光っていることです。浦高には特異な文化があり、仲間同士の切磋琢磨が感じられたからです。」と、記した手紙を頂きました。

杉山校長は最近米国に出張し、大学への入学者選抜の実情を視察した結果を日経新聞（2017.01.30付）に書いています。その中で、「米国の大学受験では『エッセー』を重視しているとのこと。その目的は『志願理由書』であり、『人生の構想図』を聞き、合否判定をするためだと言います。『一度しかない人生を君はどうしたいと考えるのか？』この間に対する答えを常に考えさせる教育が、日本の教育でも必要である」と説いておられました。

③ 各地区報告（抜粋）

<春日部支部>

香田副会長が230号以上に亘って「喫茶去」を発行し続けていることは凄いこと。春日部支部は彼の努力の

お陰もあって、数々のコンサートや小旅行などのイベントを実行し続けており、若手も続々と加入している。彼の家族から彼に、同窓会の用事で出掛ける前には必ず「今日も浦高さんですね？」と聞かれるそうです。

<和光、蕨、秩父支部>

老齢化が悩み。後継者が入らないため、会の維持が困難になって来ているとのこと。同じような悩みは他の同窓会でも聞かれました。

<古河支部>

強歩大会の最終関門を高21回のメンバーが守っているが、そろそろ高齢化している上に後継者がいないので、関門の維持が困難になっていとのこと。

<東京浦高会>

「浦高の授業見学会」を実施しているとのこと。我々の中でも、卒業以来高校を訪れていない人がおられるのでは？そう言う意味でも、湘南浦高会でも企画したいと考えています。帰りに懐かしい中華料理「仙龍」の2階で懇親会などもやったらと考えています。

<県庁支部>

県庁の幹部は多数が同窓生。最近若い人も増えてきて、活性化して来ている。

<霞が関支部>

中央官庁の幹部には浦高出身者が意外と多い。特に局長・部長クラスの人のお話を聞いていて、しっかりした意見を持ち考え方を話す人は浦高の先輩であることが多い。法律は法律として、大局的な見地から判断できる人が多い。現在の官僚のトップは高12回の杉田和博氏（警察官僚から官房副長官）だが、続々と実力者が続いている。

<大成建設支部>

社内の湘南高校出身者と合同懇親会「湘和会」を設立しており、既に3回実施している。

④ 同窓会活性化委員会で検討中のテーマ（紹介）

- ・医療コンシェルジュの新設：ラグビー部員が重傷を負った事故が続いたので、その必要性が議論されている。
- ・浦高同窓生ネットワークの構築：人脈形成目的で検討中。個人情報取り扱いが壁。
- ・浦高同窓会法人化：今後の検討課題。
- ・浦高グッズの販売：今後の検討課題。

以上

2. 会員懇親会報告

大出佳和 (27 回)

2016年の活動計画に基づく第2回目の会員懇親会を3月4日(土)16:30~藤沢駅南口の「居酒屋 かもん」で15名の参加を得て実施いたしました。



今回は阪上 浩さん(3回)をはじめとして、原 稔さん(10回)、早野総和さん(11回)、小金井晃さん(12回)と大先輩にお越しいただき、少しずつ交流の輪が広がりつつあることを実感できました。

少人数の集まりでしたが、その分皆さんの経歴や近況を十分に聞くことができ、非常に興味深い会合になりました。また、今後の当会の活動に対するご意見も伺うことができ、役員会としても貴重な情報が得られました。全体的な意見としては、懇親会も含めてゴルフやハイキングなど趣味的なことをきっかけにして、交流を深めていくのが良いのではないかという意見でした。また、湘南高校や湘南高校同窓会との交流も深めていくのも「湘南浦高会」の独自の活動として良いのではないかという意見も多数聞かれました。

参加者皆さんのすばらしい知識や経験、人生に対して常に前向きで生き方は、まさに「生涯現役」という言葉がぴったりで大いに参考になりました。

一次会は予定通り19:00に散会しましたが、21回の同期会がその後開催された模様です。

引き続き会員懇親会は開催を計画いたしますので、是非とも多くの皆さんにご参加いただければと思います。

<会員懇親会参加者> (敬称略)

阪上 浩(3)、原 稔(10)、早野 総和(11)、小金井 晃(12)、野沢 芳久(13)、七海 耕一(14)、芳賀 八郎(14)、花俣 和男(21)、馬淵 徹至(23)、喜井 博之(24)、平井 隆一(21)、原田 洋(21)、鶴塚 芳夫(21)、吉田 学(23)、大出 佳和(27)

3. 会員コラム

<記念誌「広き宇内に」> 早野総和 (11回)

我々浦高11回生は、これまでに2回「広き宇内に」と題して記念誌を発行している。1回目は還暦記念誌「浦高ルネッサンスから新世紀へ」と副題をつけて80人以上の投稿を集めたものを、2回目では、古稀記念誌「新世紀からの十年」を副題として60人を超える人たちの投稿を載せている。

この記念誌には、同期に浦高を卒業したものの、その後全く交流のなかった人たちの来し方もいろいろな局面をとらえた形であらわされていて、同時代を生きたものとして、何度も感動を覚えたものである。

私も還暦記念誌には「七宝との出会い」、古稀記念誌には「現代美術としての七宝」と題して作品の写真とともに文章を載せ、現在も続いている七宝とのかかわりを紹介した。

その後は日本七宝作家協会の常務理事として、協会の運営に深く関わるようになり、展覧会の充実、協会財政の改善、新たな賞の設定などの対外折衝などに心を砕いている。また、茅ヶ崎市で初心者向けの七宝サークルを立ち上げ、七宝人口の拡大に努めている。是非皆さんにも展覧会などにおいていただいて、七宝芸術に関心を持っていただき、サポーターとして応援していただきたいと切望している。

以上

★ ★ ★ ★

<浦高・湘南定期戦の思い出> 今井周一 (13回)

昭和33年秋、この年が第1回目だったかどうか定かではありませんが、筆者の1年生時にバレー部のメンバーとして湘南高を浦高に迎えました。浦高はその年の夏にインターハイ出場という実力通りに勝利したことが蘇ってきます。

北浦和駅から浦高通りを校旗を先頭に湘南生の行進を迎へましたが、湘南全校のクラスごとの列の先頭に、4~5名の女子生徒が行進してきたのを、少し異性を意識する頃でもあり、眩いばかりの羨ましさで出迎えたことを、60年弱経った今でも青春のワンカットとして鮮明に覚えています。

その後の大学や就職した会社においても、何故か必ず湘南出身者がおり、永遠のライバルとして切磋琢磨し合ったことも湘南との縁の深さによるものと感じます。

昨年6月、縁あって湘南浦高会総会にお招き頂いた際に、浦高2年生時に定期戦で訪問以来、初めて湘南高を訪問しました。

当時の記憶は殆ど残っていませんが、建て替わったであろう校舎のコンクリートで覆われたような無機質な伝統校らしからざる佇まいに、母校浦高との対比において若干の意外感を禁じ得ませんでした。

グラウンドで部活中の先生との立話しでは、現在女子生徒が40%ほどで、これでは定期戦も勝負にならない、と往時の定期戦を懐かしみながらも、その2年前の浦高ラグビー部の54年振りの花園出場を称えて頂きました。

現在NPOで活動していますが、未だに浦高ブランド・浦高人脈の恩恵に浴しており、心の底から浦高の卒業生であることを誇りに思う日々です。

以上



<湘南浦高会懇親会に参加して> 七海耕一(14回)

「青春」という詩に“青春とは人生のある期間を言うのではなく心の様相を言うのだ”とあります。とは言え、浦高時代は皆が青春真ただ中でした。

このところ藤沢市で頻りに湘南浦高会の懇親会が居酒屋で開催されるので、幹事に感謝しています。浦高のことを話せると気持ちが若返るからです。

必ず浦高時代の思い出をスピーチするのがお決まりなのですが、藤沢だけに湘南高校との定期戦がいつも話題になります。前回の懇親会では、アウエー戦でなんと猛者が揃っている柔道部が負けたとの報告がありました。今だに痛恨の極みだそうです。敗因は黄色い声援だそうです。バレーボール部OBからも黄色い声援に負けたとの報告がありました。

かく言う私もサポーターで参加したのですが、女子生徒がもの珍しく「借りてきた猫」状態で蛮声を張り上げることもなかったように思います。アウエー戦での勝敗はどうだったのか、味方が相手を圧倒したという記憶は残念ながらありません。

湘南浦高会として、近い将来、湘南高校OBとのゴルフコンペ(マッチプレー)を検討していただければ有難いと思います。最近、某名門ゴルフクラブが女性会員の入会を認めることになりましたが、湘南高校とのゴルフ対抗戦は伝統を重んじOG抜きで行われること

でしょう。藤沢の居酒屋での祝勝会で校歌を高らかに歌う日が来ることを希望しています。

「青春」という詩に“希望ある限り若く 失望と共に 老い朽ちる”とあります。身体の衰えは止むを得ませんが、湘南浦高会の行事に参加されて、心の若さは持ち続けたいものです。

以上

*会員コラムは、会員の皆さんどなたがご寄稿いただいても構いません。高校時代の思い出や同期生・同窓生との交流について等をお寄せください。

連絡事項・今後のスケジュール

<連絡事項>

4月発行予定の浦高同窓会紙「麗和」に湘南浦高会が紹介されますので、ご確認ください。

<浦高バレー部湘南戦復活試合>

4月2日(日) 湘南高校体育館 13:00~

見学・応援希望の方は現地に直接お越しください。
湘南浦高会の役員数名が応援に行っています。

<会員交流イベント>

- ・湘南浦高会 ゴルフコンペ 4月20日(木)
三島カントリークラブ(静岡県)で実施予定
- ・鎌倉散策&懇親会 5月11日(木)9:30~
現在参加者募集中です。
- ・崎陽軒工場見学会 7月以降 平日開催予定

<2017年 湘南浦高会 総会開催日程>

- ・6月3日(土)14:30 藤沢商工会館他

皆さんの積極的なご参加をお待ちしております。

編集責任者: 大出 佳和 (27回・事務局長)

発行責任者: 平井 隆一 (21回・会長)